

# ■研究推進委員会 2019 年度 活動報告書

提出日：2020 年 3 月 30 日

名 称	生態工学研究推進委員会
委員長	氏名（所属）：倉本宣（明治大学）
幹 事	氏名（所属）：八色宏昌（景域計画（株）） 連絡先（e-mail アドレス）：yairo@keiiki.co.jp
その他 構成員	氏名（所属）： 板垣範彦（いきものランドスケープ）、井上剛（(株) 地域環境計画）、 裏戸秀幸（横浜市）、大澤啓志（日本大学）、勝野武彦（日本大学名誉教授）、 亀山章（(公財) 日本自然保護協会）、黒田貴綱（日本大学）、近藤哲也（北海道大学）、 園田陽一（(株) 地域環境計画）、趙賢一（(株) 愛植物設計事務所）、徳江義宏（日本工営（株））、中尾史郎（京都府立大学）、 並木崇（(公財) 世界自然保護基金ジャパン）、中村忠昌（(株) 生態計画研究所）、 春田章博（春田環境計画事務所）、日置佳之（鳥取大学）、逸見一郎（(一社) 自然と文化創造コンソーシアム）、 宮本 渉（(株) 地域環境計画）、森本幸裕（(公財) 京都市都市緑化協会）、養父志乃夫（和歌山大学）、 渡邊敬太（大成建設（株））
今年度 活動報告 成果	<p>1. 「生きもの技術ノート」および「用語解説」の企画編集 月に1回の研究推進委員会を開催し、学会誌に連載中の「生きもの技術ノート」（年4回）および「用語解説」の企画立案、編集作業を実施し、学会誌に「生きもの技術ノート」を年4回連載した。テーマは「鳴き声による昆虫の調査」、「錯誤捕獲のないアライグマ専用捕獲器の開発」、「自然教育園における総合的な長期モニタリング」、「ビオトープ池における水辺のハビタット維持に向けた水質保全システム」である。同時に用語解説として「生態展示・生息環境展示」、「非破壊調査（nondestructivesurvey）」、「生物多様性と生態系サービスに関する地球規模アセスメント報告書（Global Assessment Report on Biodiversity and Ecosystem Services）」、「クビアカツヤカミキリ被害」を掲載した。</p> <p>2. シンポジウムの開催 平成 31 年度日本造園学会全国大会において研究委員会フォーラム「市民科学は市民と自然とのかかわりを変えるか」を開催した。</p> <p>3. 令和 2 年度日本造園学会全国大会研究委員会フォーラムの企画立案 平成 31 年度に引き続き、令和 2 年度日本造園学会全国大会研究委員会フォーラムの開催を目指し、テーマ「都市公園における生きもののデータ保存方法に関する提言」を企画し、ミニフォーラムに応募した。</p>